



NPO 法人マザーズサポーター協会では、納得のいく「今」を生きるために、お役に立つ情報を発信しています。 44号 2022年9月

こんにちは。理事長の喜田菜穂子です。

久々に順番が回ってきましたので、どのようなことをお伝えしようかと迷いましたが、私たちの活動の中で、特に子育て中の保護者の皆さんへの講演会の時、配布させて頂くことの多い、「子どもの生きる力を育てる関わり方 15か条」について一つ一つ掘り下げていこうと思います。

1. この子の人生の主人公は、この子であることを忘れない

子育てをしていると、私たち親は、良かれと思って手を引いて先導してしまうことがあります。例えば、「転ばぬ先の杖」を出して守り過ぎてしまったり、この子のためにという思いから自分の経験上正しいことを上から目線で命令したり。それもこれも子どものことを考えてのことなのですが、つまずいて転んでも、上手くいって自信を持つのも、子ども自身。

よほどのことがない限り、人生の主人公として、自分の足で歩いていけるよう見守りたいですね。

2. どのようなことも、この子にとっては常に「最善を選択してきた結果」であると意識する。

子どもだけではなく、わたしたちは常にその時その時、無意識な時も含めて自分にとっては最善の選択をしていると思うのです。後で、「なぜそんなことをしたのだろう」と悔いることがあったとしても。それは子どもでも同じことが言えて、経験を積んで、年を重ねてしまった大人から見たら、「なぜ、そんなことをしたのか・・・」と嘆くような子どもの行動も、その子にとってはその時の最善…そんなふうに入れながら未来への支援ができたなら、きっと親も子も心が柔らかく未来を考えられると思います。



3. 話をしてくれない日が続いても、いつも大切だと思っているアピールを忘れない。

子育て支援ばかりではなく、大人の世界でも同じ職場の部下が話をしてくれなくて心配になる。そんな相談は必ず出てくるものです。

しかし、諦めるわけにはいかない。特に大切な子どもであれば尚さらですね。本人の心の中は嵐が吹き荒れているのかもしれないし、泥沼にはまって辛い状況にあるかもしれないのです。

残念なことに話をしてくれるかどうかは本人次第。さりげなく、「いつでも話を聞くよ」というアピールはしておきましょう。「話をしなさい！」と上から目線で言えばいほど、子どもの口は貝のように閉ざされることは忘れないでおきましょう。

4. 思い込みを一旦はずす。

「この子はこういう性格だ。」「この子には難しすぎる。」「私の子どもだからこうに違いない。」「この子の友達の〇〇さんはこんな子なので付き合わない方がよい。」・・・etc. わたしたちは知らず知らずのうちに自分の価値観にあてはめて、子どもやその周囲の人たち、あるいは物事を決めつけてしまいがちです。そうなってしまうと、可能性は狭められ、子どもたちが身動きしにくくなる状況も生まれる可能性が出てくるでしょう。子どもたちの未来はその子たちが作る。まずは広い視野で見守ってあげましょう。

5. 会話、かかわりの意図を意識する。

普段の何気ない会話でも多分無意識の目的があるはず。子どもの様子を知るため、子どもにとって楽しい時間を作ってあげたい、子どもの行動を嗜めて叱り、悪い道に進まないでほしい・・・など。

例えば、様子を知るためであれば、それを話したくなるような働きかけが大切ですね。

心配するあまり、否定から入ったり、詰問してしまうと、正直に話してくれないかもしれません。そうなる
と、様子を知らずという目的から外れてしまう。

親は子ども自身が主体的に考え、未来に向かって進んでほしいと思います。にもかかわらず、子どもの気持ちを頭ごなしに否定してしまうと子どもは「パパやママはわかってくれない」と心の距離が離れてしまい、思いもよらない行動に進んでしまうこともあるでしょう。

大切なのは、かかわりの目的を意識する。親が子どもの一番の理解者となり、子どもにどうなってほしいのか、どんな人生を送ってほしいのかを考え、そのためにはどうすることがそこに向かうのか。たまにはそんなふうに関わりが自分の対応を振り返るといいのではないのでしょうか。

6. 子どもの可能性を開き続ける。

子どもの未来は無限です。いろんな可能性を共に考え、

示してあげるのも親として楽しいことですね。

7. 子どもの思いをまずは聴く、知る。

私は、さまざまところで研修や講演をするのが仕事です。先日も放課後児童クラブ支援員の皆さんへヒューマンスキルの研修をしてきました。「子どもたちはいつも話を聞いてもらいたがっている」先生方一応におっしゃいます。お仕事や家事で忙しい日々を送るので、出来事は聞くけれど、なかなか子どもの思いを丁寧に聞くことができないかもしれません。

しかし、たまには子どもたちの話を丁寧に聞き、思いを受け取ってあげましょう。そうすることで子どもの自己肯定感が育ち、親を一番の理解者として位置付けてくれるのです。そして、子どもの今の状況も知ることができますね。是非、たまには手を止めてじっくり向き合ってみましょう。

8 番からは次号へ続きます

子どもの生きる力を育てる関わり方 15か条

- 1.この子の人生の主人公は、この子であることを忘れない
- 2.どのようなことも、この子にとっては常に「最善を選択してきた結果」と意識する。
- 3.話をしてくれない日が続いても、いつも大切だと思っているアピールを忘れない。
- 4.思い込みを一旦はずす。
- 5.会話、かかわりの意図を意識する。
- 6.子どもの可能性を開き続ける。
- 7.子どもの思いをまずは聴く、知る。
- 8.考える場を一緒に作る。
- 9.褒めるだけでなく認める。
- 10.自信構築のために、責任を取る経験を奪わない。
- 11.失敗したと感じることも、常に学びの種に変え、支援する。
- 12.親の体験や助言を選択するかどうかは、子どもが決めること意識して提案する。
- 13.謝る気持ちを持ち、誠実にかかわる。
- 14.勇気をくじかない。
- 15.待つ！



「NPO 法人マザーズサポーター協会 ニュースレター 第 43 号」をお読みいただきありがとうございました。過去に情報提供のご希望があったみなさまに、送付させていただいています。今後も更に内容を充実させ、育てる側に役に立つ「自立型支援方法」の情報やイベントのご案内などを発信させていただきます。

NPO 法人マザーズサポーター協会 <http://m-supporter.com> fax:078-731-0615

